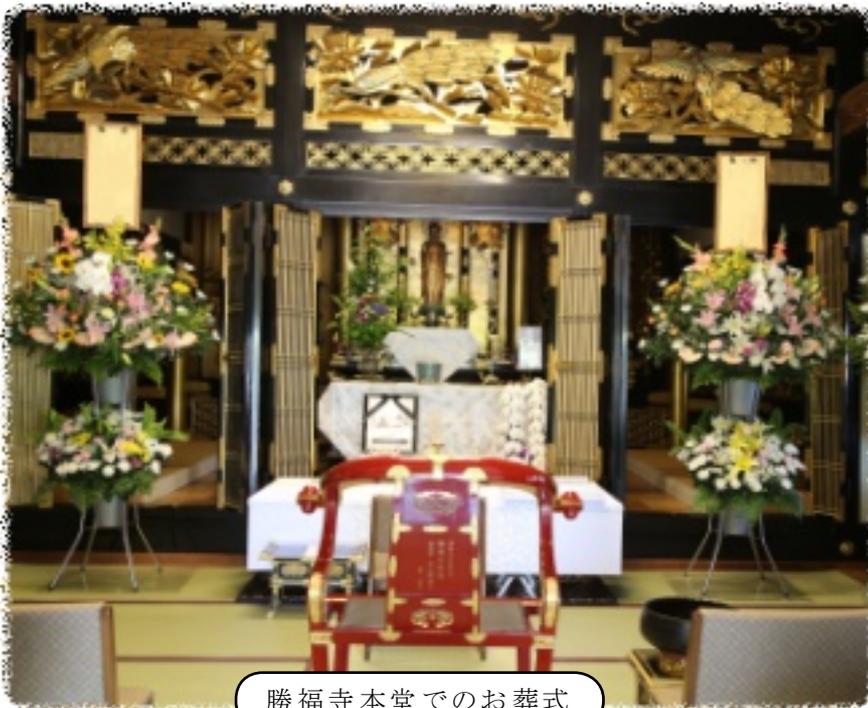


お念仏と共に ～ 如来に念ぜられて生きていこう ～



勝福寺本堂でのお葬式

# お寺で お葬式



東京で密葬、故郷のお寺で本葬

昨年の夏、西安・敦煌・トルファンを巡るシルクロードの旅に出かけた折、ガイドさんに中国の宗教事情を聞いてみたら、「無宗教」との答えであった。「それなら、葬儀はどうするの」と重ねて聞くと、たくさんの人で見送るのだという。見送る人が多いほど「よい葬式」ということで、酒食のもてなしをし、時にはストリップまでするという。しかし、いくら多くの人に見送ってもらっても、迎え取ってくれる世界がはっきりしなければ、それこそ「冥土（真つ暗闇の世界）」を彷徨うほかなかるう。

想えば、秦の始皇帝がそうだった。自らが神となった始皇帝は、その罰として、死せる我が身を受け取ってくれる世界（仏）を喪失した。だから、自分の死後を守るため、35年の歳月と80万の奴隷を酷使して、八千体の兵馬俑で護られた墓を造るほかなかった。ああ、なんと愚かなことか。この春、久方ぶりに、お寺の本堂で葬儀が執り行われた。引き続き、自宅のお内仏の前での葬儀があった。そこには経済的な理由もあったのだが、結果的には、飾り物がないだけ、葬儀は阿弥陀さまのお浄土へ迎え取られる儀式であることがはっきりした。

一生の最期に必要なことは、美辞麗句でもなければ、過剰な装飾でもない。還りゆく者をお迎えくださる阿弥陀さまと、喜怒哀楽を共にした親族知友の哀悼の真心である。飾りを廃して、阿弥陀さまに真向かって行われるお寺での葬儀、お内仏の前での葬儀は、不便なことも多々あるし、お寺に住む者、家の者に負担もかかるが、きよらかで、さわやかな葬儀が執行できるのではなからうか。

これからは、皆さまからご要望があれば、お寺の事情が許す限り、葬儀を引き受けていこうと思います。

こうるさん しょうふくじ  
**響流山 勝福寺**  
 しんらんしょうにん  
**親鸞聖人七百五十回御遠忌**  
 ごえんき

昨年9月の総代会で、勝福寺においても「親鸞聖人七百五十回御遠忌」を行うことが決まりました。それから今日まで懇談会や委員会を4回開き、組織や内容について話し合いを重ねてきて、ようやくその方向性がみえてきたところです。ご報告いたします。

**御遠忌開催の願い**

親鸞聖人によって開顕せられ、御先祖が何代にも渡って相続してきた「念仏成仏」（念仏して浄土に生まれ仏に成る）の教えをわが身の上に聞きとり、社会にあふれる「不信と憎悪」に巻き込まれず、「信と愛」に基づいて生き死にすることのできる者になっていく。

**法要日時**

2019年11月26日〜28日

**御遠忌委員会**

委員長 向野 茂 総代長  
 副委員長

松尾 由美子 (法要担当)  
 松本 順 (組織担当)  
 渡邊 重昭 (広報担当)  
 事務局長 渡辺 和義  
 会 計 牧本 和孝

**御遠忌記念事業**

① 御遠忌に向けての研修

2018年1月13日を第1回とし、

毎月1回、開法会を開催。

\* 開催日 第2土曜日 13...30  
 \* 講師は 住職・坊守及び外部講師

② 御遠忌に向けての文化事業

お寺が人びとの出会いの場となるよう、大小さまざまなイベントを行う (次回検討)

③ 上山研修と聖跡巡拝

蓮如上人御影道中の御上洛日に合わせて実施 (2019年5月10日頃)

④ お寺の在り方を時代相応に改変

御遠忌を機会に、仏事や法要の在り方、門徒組織、本山納金・勝福寺維持費等について話し合い、時代相応の勝福寺にしていく。

⑤ 勝福寺史の作製

担当 (渡邊重昭・渡邊浩晃)

⑥ 広報

ご門徒に御遠忌事業を周知してもらうとともに、親鸞聖人の教えを学んでいくための広報誌を出す。

**お寺でJAZZ**

今年もJAZZコンサートをさせていただきます。ありがたい、ありがとうございます。

今年、津久見、宇佐、杵築、耶馬溪と、四ヶ所で演奏させてもらったのですが、それがとても良かったです。風さんを含めて4人で6日間を共に

過ごし、同じ曲を演奏するのですが、毎回現れてくる音楽が変わります。音楽を通してのコミュニケーション、会場の建物、観客、演奏者を含め、いろいろなものを音楽が吸収して、音楽がそこにながたを現してきます。生演奏の生き生きとしたすがたかと思えます。



またお寺でジャズを演奏する機会があったら、よろしくお願ひします。ありがとうございました。(藤谷 信)

# ご門徒さん こんにちは！

## 第九回

今回は、六月まで勝福寺仏教婦人会の副会長をされていた若林範子さんをお訪ねしました。

いつも穏やかな笑顔の若林さんは今年六十九歳、中津市で会社員の両親から三人兄弟の二番目で長女として生まれました。小さい時から穏やかな性格で、周りの人からとても可愛がられたそうです。そして本が大好きで、小学四年生の時には宮沢賢治の詩「雨ニモマケズ」を暗誦したそうです。

学校を卒業すると花嫁修業をします。でも都会に憧れ、大阪の親戚を頼って就職しますが、都会の生活に馴染めず、すぐに帰って来ました。そんな若林さんにお手次寺のご住職から「東別院で事務員さんを捜しているが、行ってみないか」と声をかけられたのが縁で、別院の教務所に就職します。そして別院に五

年間勤めますが、結婚を機に退職しました。

結婚の相手は、兄の高校時代のからの友人で、自然に結婚しようかということになったそうです。

ご主人は、労働基準監督署に勤めていたので転勤が多く、佐賀、日田、中津と転勤します。そして中津に帰ってきた

のを機に、ご主人の柳ヶ浦の実家の側に住みますが、ご主人はずっと単身赴任生活を続

み、レスキュー隊がカッター

で車を切断して救出しました。

現場で事故の状況を見た中津の両親は娘の死を覚悟したそうです。幸い死は免れますが、

両手・肘がバラバラの粉砕骨折で感染症の恐れのため、大変危険な状況だったそうです。

二週間後、その危機から脱したので大分の病院に移りました。そこで九時間に及ぶ大手術を行い、手術は成功します。しかし手足に痺れが残り、今

でも歩くのに支障をきたしています。

# 思いやりの心 若林範子（柳ヶ浦）

けます。そして退職後も大分市で社会保険労務士事務所を開き、仕事半分、趣味半分の

単身生活を謳歌しているそうです。

若林さんは二人の子供に恵まれ、ご主人の実家の家具店を手伝っていましたが、四十

四歳の時に大事件が起こります。

中津の実家の近くで軽トラックを運転中、大型ダンプとの正面衝突事故に遭います。車は大型ダンプの前部にめり込

うになるのに二年かかる」と言われたそうですが、退院の時は杖で歩けるまでに回復し、その杖も三ヶ月で不要になったそうです。

その奇跡的な回復には、若林さんの「くよくよしない性格」が関係ありそうです。中津の病院に入院中、毎日付き添ってくれた母が後で若林さんに「お前が全然泣いたり悔



やんだりしなかつたので助かった」と言ったそうです。何で

そんなに穏やかになれたのか尋ねると「私が泣き叫んだり、苦しんだりすると周りの人が

やりきれないだろうな。という気持ちが根底にあったと思います」と答えてくれました。

どんな苦しい時でも、常に相手を思うことが出来る若林

さんの凄さに感動しました。だからその思いやりの心が穏やかな笑顔に表れているんですね。

さて、若林さんに三年間の婦人部副会長の感想を尋ねると、「先ず、足の不自由な私をみんなが連れて行ってください、送ってもらったりして大変お世話になったこと。次にお寺の内部のことがよく分

かりだったこと。以前は役もしてないので口を出したり、手を出したりするのは悪いかなと遠慮があった。でも役を

経験すると、お寺のことが分かり、行きやすくなりました。みなさんは敬遠するけど、是非一度経験した方が絶対良い。

いろんな人に会えるし、お話しも聞ける。とても良い経験だから是非してみたい」と話してくれました。

今、若林さんは恵信尼様を題材にしたパッチワークを構

想中です。そして勝福寺の親鸞聖人七五〇回御遠忌法要の

時に、みなさんに作品を見てもらおうと考えています。

どんな素晴らしい作品が出来るか、とても楽しみです。（文責 渡辺 重昭）

# 二〇一七年「ゆふわく in 津久見」

## 松本 順 (大塚)



津久見の蓮照寺に移し、福島県の親子二十二名を、7月23日〜7月29日までの7日間招待しました。

弁護士・住職・坊守・県議・市議・会社員・主婦など二十一名で構成された実行委員会のメンバーと、会場となった津久見の蓮照寺のご門徒や地域の方々と、それにカンパを寄せてくださった多くの皆さまの力が一つになって「ゆふわく in 津久見」が実現できました。

この取り組みは、福島第一原発のメルトダウン事故により、放射能の問題で遊ぶことも出来ない子供たちに、屋外で思い切り遊んでもらおうと発足しました。今回は、会場を湯布院から

今回、私は全日程に参加しました。福島まで迎えに行き、新幹線、サンフラワーで別府に到着。初日は湯布院散策、二日目は保戸島へ。保戸島空襲慰霊祭に参加後、海遊び。三日目はそうめん流しや臼杵の町歩き。四日目は午前中、魚釣り。午後には太平洋セメントの採掘場

夜のお別れ会では、たこ焼き・焼きそば・かき氷・串焼き・マグロのおさしみの屋台に、ヨーヨー釣り、花火などで最後の夜を楽しみました。

7月28日、いよいよ最後の日。別府の地獄めぐり、昼食に九州ラーメン、「うみたまご」でイルカショー

を見、別府国際観光港に到着後、記念撮影をした頃より子供達が「帰りたいくない」と泣き始めました。

今回、お迎えから見送り

まで生活を共にして感じたことは、子供は思いがけない発想をすること、ちゃんと自己主張の調整ができること。また、人間一人では何もできないけれど、色々な能力を持った人達に支えられて生きている事を痛感致しました。

帰りの船に乗った時、子供たちは涙・涙の連続でした。参加した子供や保護者からのお

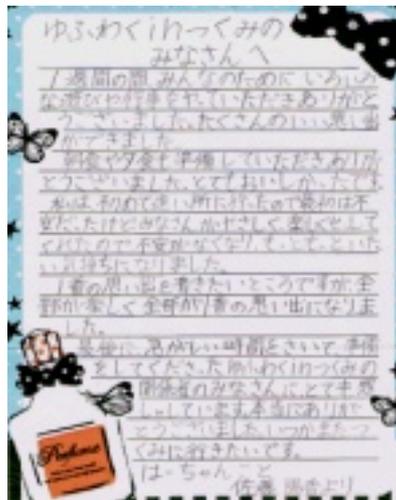
やしいです。バーベキューはとてもおいしかったです。ばさきは、一番おいしかったです。花火はとてもきれいでした。せんこう花火はいっぱいしました。もちろん行列で夜のお墓や坂などに行きました。すぐおもしろかったです。そして朝は友達とみんなで犬の散歩に行きました。すっごく楽しかったです。

### たんぽぽ子ども会

安田 朱沙(あや)

四日市北小5年

お寺に初めて泊まりました。滝に行つてとても楽しかったです。たきにうたれたときはとてもたのしかったです。スイカ割りもとても楽しかったです。あたたかけどわれなかったの



札の手紙に、僕は将来、大分に住むとか、帰りたいなかつたとか、子供が一回り大きくなったとか書かれていて、私も涙を流しながら手紙を読ませて頂きました。



安心院町「富貴野の滝」



# 今年も 平和の鐘を つきました

「世の中安穩なれ 仏法ひろまれ」と願って下さった親鸞聖人と共に、「世界の平和を願って鐘を撞こう！」を合い言葉にして、8月15日の終戦記念日の正午に、平和の鐘を撞く取り組みが今年も行われました。

勝福寺本堂で先の大戦で亡くなられた方々のご冥福を祈ってお経をあげた後、12時から鐘楼で鐘



を撞きました。みんなの願いをこめた梵鐘の響きが平和の祈りを込めて街中に響き渡りました。

アフガニスタン  
**WAR**ではなく  
**WATER**を

中村哲医師講演会in大分

日時：2017 8月20日(日) 14時30分～16時30分まで  
会場：中村 哲 音楽ゲスト：ロイスクリア・コーネリアス・カウチ

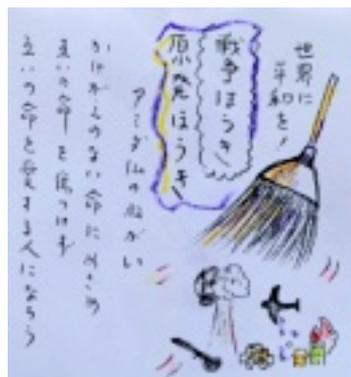


福岡出身で一九八四年からパキスタンで医療活動を始め、89年からはアフガニスタンにも活動を広げ、現在は医療だけでなく、農村復興のため、大がかりな水利事業に携わっている中村哲医師の講演会「アフガニスタンWARではなくWATERを」が、8月20日大分市で行われました。

この会場に集まった方々に世界中が戦争や紛争を放棄して平和になる事を祈って、婦人部が作った「戦争ホーキ」二〇〇本を配りました。



汗をかきかきの、戦争ホーキ作りでした。



## 編集後記

たんぼぼ子ども会に参加した子ども達の感想や写真を見ていると、その笑顔に吸い込まれてしまえそうです。

この夏、お寺に泊まったり、いろんな学年の人と遊んだり、たくさんさんの思い出が出来たと思います。将来、子供達が大きくなって振り帰った時、この体験が貴重な財産となることでしょう。

夏休み子ども会を運営された皆さん、御苦労さまでした。そして有難うございました。

(渡辺重昭)

勝福寺でも、ご本山、四日市別院に続いて、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌を、お勤めさせていただくことになりました。お念仏のみ教えは、不信と憎しみとあきらめで生きる方向が見えなくなった現代社会を照らす灯です。お互いに声かけあい、励ましあい、この尊いみ教えを聞いてまいりましょう。

好評の「ご門徒さん こんにちは」、はやくも9回目になりました。すべて渡辺重昭さんがインタービューし、文章化してくれたものです。有り難うございます。(藤谷知道)